「タンザニア研修の成果を教室へ！先生たちのその後」

旭川工業高校における公開モデル授業（2008.3.14）

JICAの教師海外研修で1月にタンザニアを訪問した先生方が、その成果を各自の教育現場に還元する際のヒントにしてもらおうと、公開モデル授業を実施しました。

グループで熱心に話し合う旭川工業高校の生徒たち

対象は北海道旭川工業高等学校2年生電子機械科38名の生徒、授業者は平成19年度教師海外研修参加者のひとりである佐藤章一教諭です。世界史における「世界とのつながり」という単元で、「開発途上国や青年海外協力隊への関心を高めることによって進路意識を持った3年生のスタートにしてほしい」という授業者の思いもありました。タンザニアでインタビューした数名の青年海外協力隊員の「なぜ協力隊員になったのか」という思いを紹介しながら、特に「仕事における幸せとは何か」という職業観に迫る場面では、生徒たちもグループで熱心に話し合い、後日もう一時間この授業が追加されるほどでした。

公開モデル授業を担当した佐藤章一教諭

引き続き行われた研究協議では、「教師海外研修の参加者ほとんどが集まり、授業の場面によってはチームティーチングを行ったのは、生徒たちにとっても新鮮であり有効であろう」という意見もありました。このように参加者同志が今後も情報交換・共有していくきっかけとなり、国際理解教育における異文化理解の面のみならず、「国際協力」への意識が芽生えた小学校での例も発表され、開発教育支援分野におけるJICAの役割を再認識することができました。

（JICA札幌　平成19年度教員社会体験研修員　杉原）

あの感動が再び！地球のステージ～JICA版in札幌

2008年5月8日（木）北海道大学クラーク会館での公演報告

「やっぱり、ライブやねぇ。」公演を終えた桑山さんが語った言葉が印象的でした。

「JICA北大連携国際協力セミナー」の特別版として行われた「地球のステージ」も今回が2回目。世界の紛争・被災地等で出会った様々な人々や出来事が、スクリーンに映し出される大迫力の映像と、オリジナル曲の数々で紡がれていきます。親しみやすい岐阜の方言で聴衆に直接語りかけるステージは、今回も健在。内容にもアレンジを加えた「JICA版地球のステージ」は、聴衆を惹きつけます。

国際協力の第一歩は、「人」に興味を持つこと。「この人が好きだから」「この人と仲良くしたい」という日常的な思いから始まると語る桑山さん。決して国際協力が縁遠いものではないことに、気づかせてくれます。今では55カ国の国際協力の現場を経験された桑山さんも、最初はボランティアが大の苦手！だったそうです。

今回の客席では、高校生の参加が目立ちました。このことは、全国を巡る桑山さんも、北海道ならではだといいます。次世代を担う若者たちの心に、たしかな礎が築かれたに違いありません。

（JICA札幌　教員社会体験研修員　渋谷）

「見て見ぬふりをしない人生を選ぼう」と語る桑山紀彦さん。国際協力とは、人間の生き方でもあるのです。

以後よろしくお願いします！国際協力推進員（旭川）交代挨拶

2008年3月より鳥居推進員の後任としてJICA旭川デスクに着任しました石井優子です。

ケニア、ニジェール、エジプトと、アフリカ大陸を中心に活動してきました。

登山が趣味な私は、大雪山系の雄大な山々に囲まれながら仕事ができる環境を本当に嬉しく思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

エジプト・シナイ山にて